

米国農務省穀物等需給報告(2023 年 1 月 12 日発表のポイント)

令和5年1月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、1月12日(現地時間)、2022/23年度の9回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2022/23年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

(※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27億 3,064 万トン(対前年度比 2.3%減) ↓
- ② 消費量: 27億 6,297 万トン(対前年度比 1.4%減) ↓
- ③ 期末在庫量: 7億 6,069 万トン(対前年度比 4.1%減) ↑
期末在庫率: 27.5%(対前年度差 0.8 ポイント減) ↑

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、ウクライナと EU で引き上げられたことから上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、飼料用その他需要量がウクライナ等で引き下げられたものの、米国等で引き上げられたことから、前月から上方修正も、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの輸出量が前月から上方修正された。

- ① 生産量: 7億 8,131 万トン(対前年度比 0.3%増) ↑ …ロシア、カナダ、カザフ等で増加、ウクライナ、アルゼンチン、インド、EU 等で減少
- ② 消費量: 7億 8,974 万トン(対前年度比 0.3%減) ↑ …ロシア等で増加、インド、中国等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億 6,839 万トン(対前年度比 3.0%減) ↑ …ロシア、中国等で増加、インド、米国、EU 等で減少
期末在庫率: 34.0%(対前年度差 0.9 ポイント減) ↑

とうもろこし : 世界の生産量は、中国で引き上げられたが、アルゼンチンで前年 12 月から 1 月当初にかけての高温・乾燥により単収、収穫面積が引き下げられたことに加え、米国で収穫面積が大きく引き下げられたこと等から、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、前年度より減少する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの輸出量は上方修正された。

- ① 生産量: 11億 5,593 万トン(対前年度比 4.9%減) ↓ …ブラジル、中国、アルゼンチン等で増加、米国、EU、ウクライナ等で減少(前月に比べ中国で上方修正、米国、アルゼンチンで下方修正)
- ② 消費量: 11億 6,547 万トン(対前年度比 3.0%減) ↓ …中国、ブラジル等で増加、米国、EU、ウクライナ、カナダ等で減少(前月に比べ中国で上方修正)
- ③ 期末在庫量: 2億 9,642 万トン(対前年度比 3.1%減) ↓ …ブラジル等で増加、米国、EU 等で減少
期末在庫率: 25.4%(対前年度差 0.03 ポイント減) ↓

コメ(精米) : 世界の生産量は、インドで引き上げられたものの、中国で引き下げられたこと等から、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- ① 生産量: 5億 297 万トン(対前年度比 2.3%減) ↓ …インド、中国、パキスタン等で減少
- ② 消費量: 5億 1,610 万トン(対前年度比 0.8%減) ↓ …インド、中国等で減少
- ③ 期末在庫量: 1億 6,998 万トン(対前年度比 7.2%減) ↑ …中国、インド等で減少
期末在庫率: 32.9%(対前年度差 2.3 ポイント減) ↑

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、アルゼンチンで高温・乾燥により単収、収穫面積が引き下げられたこと、米国で単収、収穫面積が引き下げられたことから前月から下方修正されたものの、中国等で生産量が引き上げられたことやブラジルで史上最高となる見通しなどから前年度を上回り、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等の需要増で前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- ① 生産量: 3億 8,801 万トン(対前年度比 8.4%増) ↓ …ブラジル、パラグアイ、中国等で増加、米国等で減少(前月に比べアルゼンチンで下方修正)
- ② 消費量: 3億 7,949 万トン(対前年度比 4.5%増) ↓ …中国、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億 352 万トン(対前年度比 5.4%増) ↑ …ブラジル等で増加
期末在庫率: 27.3%(対前年度差 0.2 ポイント増) ↑

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年1月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	(予想)	2022/23		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,725.06	2,794.97	2,730.64	▲ 2.3%	▲ 6.8	2,295.7
消費量		2,742.07	2,802.81	2,762.97	▲ 1.4%	▲ 7.0	2,284.4
期末在庫量		800.86	793.02	760.69	▲ 4.1%	0.5	480.9
期末在庫率		29.2%	28.3%	27.5%	▲ 0.8	0.1	21.1%
小麦							
生産量		774.55	779.31	781.31	0.3%	0.7	660.5
消費量		782.66	792.49	789.74	▲ 0.3%	0.2	680.0
期末在庫量		289.99	276.82	268.39	▲ 3.0%	1.1	181.1
期末在庫率		37.1%	34.9%	34.0%	▲ 0.9	0.1	26.6%
粗粒穀物							
生産量		1,441.19	1,500.70	1,446.36	▲ 3.6%	▲ 7.3	1,159.1
消費量		1,455.84	1,490.23	1,457.13	▲ 2.2%	▲ 6.4	1,139.5
期末在庫量		322.63	333.09	322.32	▲ 3.2%	▲ 2.0	175.7
期末在庫率		22.2%	22.4%	22.1%	▲ 0.2	▲ 0.0	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,129.20	1,214.88	1,155.93	▲ 4.9%	▲ 5.9	898.8
消費量		1,144.08	1,201.46	1,165.47	▲ 3.0%	▲ 5.1	877.4
期末在庫量		292.54	305.95	296.42	▲ 3.1%	▲ 2.0	144.8
期末在庫率		25.6%	25.5%	25.4%	▲ 0.03	▲ 0.1	16.5%
コメ(精米)							
生産量		509.33	514.95	502.97	▲ 2.3%	▲ 0.3	476.1
消費量		503.57	520.09	516.10	▲ 0.8%	▲ 0.8	464.9
期末在庫量		188.25	183.11	169.98	▲ 7.2%	1.3	124.1
期末在庫率		37.4%	35.2%	32.9%	▲ 2.3	0.3	26.7%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	(予想)	2022/23		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		368.52	358.10	388.01	8.4%	▲ 3.2	269.1
消費量		363.77	363.16	379.49	4.5%	▲ 1.4	265.1
期末在庫量		100.03	98.22	103.52	5.4%	0.8	58.7
期末在庫率		27.5%	27.0%	27.3%	0.2	0.3	22.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 12, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2023年1月12日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	(予想)	2022/23		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		429.86	448.60	408.46	▲ 8.9%	▲ 6.4	353.0
消費量		351.24	360.68	349.26	▲ 3.2%	0.3	317.1
輸 出 量		107.23	94.85	74.77	▲ 21.2%	▲ 5.3	51.6
期末在庫量		58.40	57.85	50.46	▲ 12.8%	▲ 0.7	44.2
期末在庫率		12.7%	12.7%	11.9%	▲ 0.8	▲ 0.0	12.0%
小麦							
生産量		49.75	44.80	44.90	0.2%	-	61.3
消費量		30.41	29.61	30.65	3.5%	0.9	37.8
輸 出 量		27.05	21.78	21.09	▲ 3.2%	-	27.5
期末在庫量		23.00	19.01	15.44	▲ 18.8%	▲ 0.1	19.5
期末在庫率		40.0%	37.0%	29.8%	▲ 7.2	▲ 0.7	29.9%
粗粒穀物							
生産量		372.89	397.71	358.47	▲ 9.9%	▲ 6.3	285.3
消費量		315.97	326.28	313.95	▲ 3.8%	▲ 0.8	275.5
輸 出 量		77.21	70.46	51.58	▲ 26.8%	▲ 5.2	20.7
期末在庫量		34.01	37.58	34.00	▲ 9.5%	▲ 0.4	23.5
期末在庫率		8.6%	9.5%	9.3%	▲ 0.2	0.0	7.9%
とうもろこし							
生産量		358.45	382.89	348.75	▲ 8.9%	▲ 5.1	273.2
消費量		306.69	317.12	304.56	▲ 4.0%	▲ 0.9	263.0
輸 出 量		69.78	62.78	48.90	▲ 22.1%	▲ 3.8	18.5
期末在庫量		31.36	34.98	31.54	▲ 9.8%	▲ 0.4	20.9
期末在庫率		8.3%	9.2%	8.9%	▲ 0.3	0.0	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.22	6.08	5.09	▲ 16.3%	▲ 0.1	6.3
消費量		4.86	4.80	4.67	▲ 2.7%	0.2	3.8
輸 出 量		2.97	2.61	2.10	▲ 19.5%	▲ 0.1	3.4
期末在庫量		1.39	1.26	1.02	▲ 19.0%	▲ 0.2	1.2
期末在庫率		17.8%	17.0%	15.1%	▲ 1.9	▲ 3.0	16.1%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	(予想)	2022/23		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		114.75	121.53	116.38	▲ 4.2%	▲ 1.9	82.8
消費量		60.91	62.77	64.37	2.5%	▲ 0.1	48.6
輸 出 量		61.67	58.72	54.16	▲ 7.8%	▲ 1.5	36.1
期末在庫量		6.99	7.47	5.72	▲ 23.4%	▲ 0.3	3.8
期末在庫率		5.7%	6.1%	4.8%	▲ 1.3	▲ 0.2	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 12, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出力)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考 1)

世界の穀物等の価格動向 (2022 年)

● 小 麦 : 7.44 ドル/bu (前年同時期の価格 : 7.59 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 1 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値 : 14.25 ドル/bu (2022 年 3 月 7 日)】

【1 月～11 月】

2 月中旬以降、ロシアのウクライナ侵攻による供給懸念等から上昇し、3 月 7 日には史上最高の 14.25 ドル/bu に値を上げたものの、上がりすぎ感や 3 月末の USDA 作付意向面積の増加等から、4 月初旬に 9 ドル/bu 台後半に値を下げた。

その後、5 月上旬に米国小麦生産地帯での降雨から一時値を下げたものの、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化による小麦供給懸念や、米国プレーンズの乾燥による米国産冬小麦への影響懸念、インドの輸出停止やウクライナ産の輸出停滞から、5 月中旬に 12 ドル/bu 台後半に値を上げた。

7 月初旬にかけては、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画、米国や欧州での冬小麦の収穫進展等 7 月初旬には 7 ドル/bu 台後半に値を下げた。

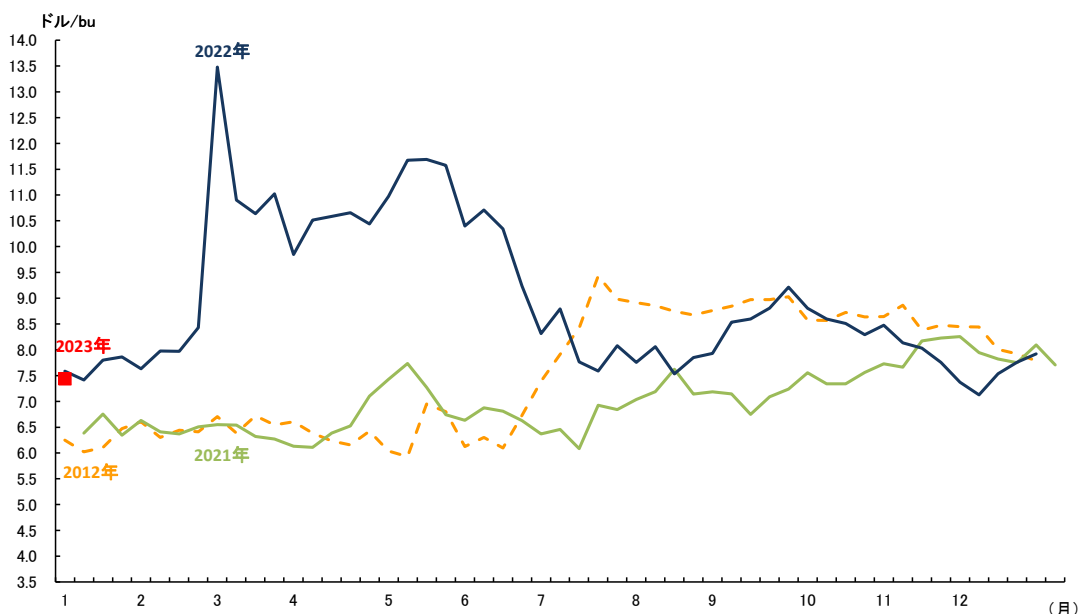
7 月上旬から 7 月下旬にかけては、各国の冬小麦の収穫の進展や、ウクライナ、トルコ、ロシア、国連でのウクライナ産穀物輸出再開に向けた合意への期待感等から 7 ドル/bu 台半ばから 8 ドル/bu 台前半で推移したものの、8 月初めのウクライナの黒海経由での輸出再開やその後のウクライナ産穀物の輸出進展から、8 月中旬に 7 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

8 月下旬以降は、ウクライナ産の黒海経由輸出に関するロシア側からの合意条件見直しの示唆や、ウクライナからの輸出の再懸念等から上昇し、10 月上旬に 9 ドル/bu 台前半に値を上げた。

その後、ウクライナ産の黒海経由での輸出維持に向けた協議の見通しや、3 年連続の豪州の豊作見通し、さらに 11 月 17 日のウクライナからの穀物輸出再開に関する 4 者合意の 120 日間延長 (2023 年 3 月 19 日まで) の決定やドル高等から、11 月末に 7 ドル/bu 台後半に値を下げた。

【12 月】

ロシアからの小麦供給が潤沢なことや、豪州の史上最高の生産量予測等から 7 ドル/bu 前後に値を下げたものの、ロシアの攻撃に伴うウクライナからの穀物輸出の不透明感や、米国産の輸出需要への期待、12 月下旬の米国冬小麦生産地帯での寒波の影響等から値を上げ、12 月末現在、7 ドル/bu 台後半で推移。



注: シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：6.54 ドル/bu （前年同時期の価格：6.07 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 1 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)】

【1 月～11 月】

2 月以降、ロシアのウクライナ侵攻やラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥による減産懸念、米国中西部の低温や雨がちな天候による作付け遅れ等から上昇し、4 月下旬に 8 ドル/bu 台前半に値を上げた。

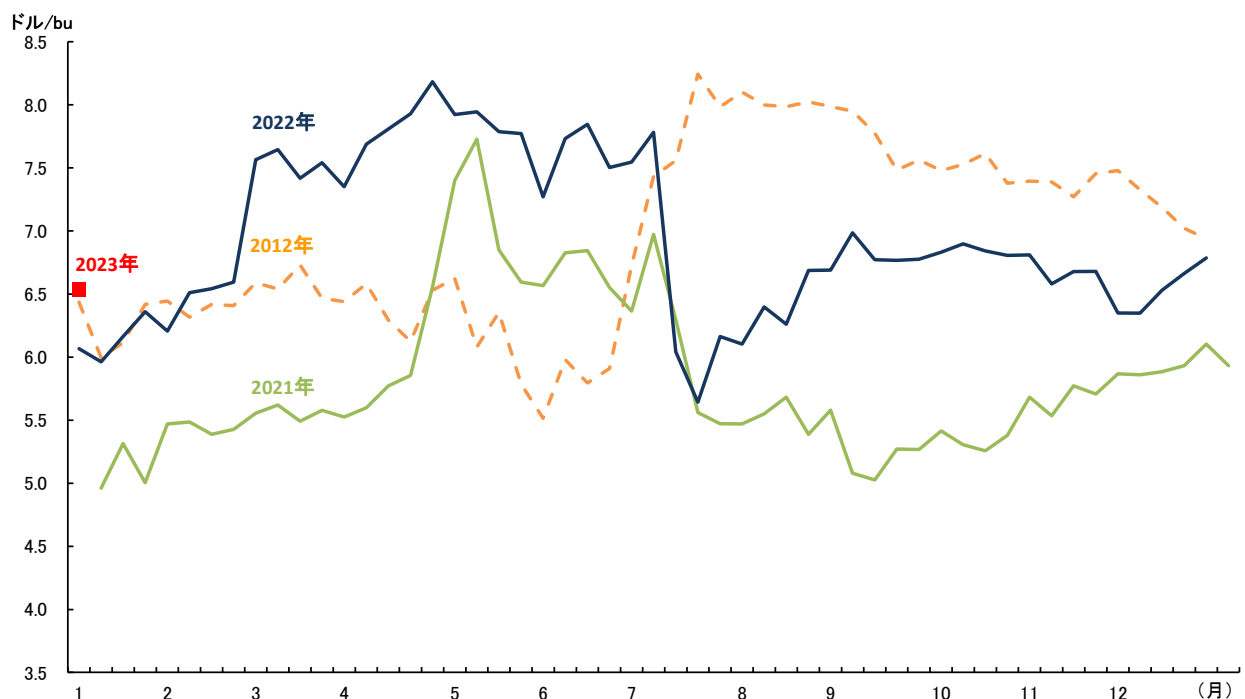
5 月に入り、天候改善により米国中西部の遅れていた作付けの加速や、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画等から 7 ドル/bu 台半ばに緩やかに値を下げ、7 月下旬には、米国中西部の一部での降雨予報やウクライナ産穀物輸出再開に向けた 4 者合意への期待感等から 5 ドル/bu 台半ばに大幅に値を下げた。

7 月下旬以降、米国中西部の高温・乾燥懸念や EU 及び米国での高温・乾燥による作柄悪化懸念等から上昇し、9 月中旬には 7 ドル/bu 台前半に値を上げた。

その後は、6 ドル/bu 台半ばから後半で推移したものの、10 月のミシシッピ川の水位低下による米国産の輸出競争力低下や、世界的な景気減速懸念、11 月 17 日のウクライナからの穀物輸出再開に関する 4 者合意の 120 日間延長(2023 年 3 月 19 日まで)の決定、ドル高等から、11 月末に 6 ドル/bu 台半ばに値を下げた。

【12 月】

米国の輸出需要低迷の懸念等から、12 月上旬に 6 ドル/bu 台前半まで一時的に値を下げた。その後、ロシアの攻撃に伴うウクライナからの穀物輸出の不透明感や、米国の輸出成約が好調となったこと、大豆価格の上昇、アルゼンチンの乾燥懸念等から値を上げ、12 月末現在、6 ドル/bu 台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コ メ : 509(※)ドル/トン (前年同時期の価格 : 435 ドル/トン)

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2023 年 1 月第 1 水曜日の FOB 価格。史上最高値 : 1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)】

※2023 年 1 月第 1 水曜日の価格が公表されなかったため、2022 年 12 月最終公表価格と 2023 年 1 月第 2 水曜日の平均値。

【1 月～11 月】

1 月以降、アフリカを始めとした国際市場におけるタイ米への強い需要等から 450 ドル/トン台前半に値を上げたものの、2 月には、旧正月の休暇期間などによる需要の減少、パーツ高による海外からの需要の減少から 430 ドル/トン台半ばに値を下げた。

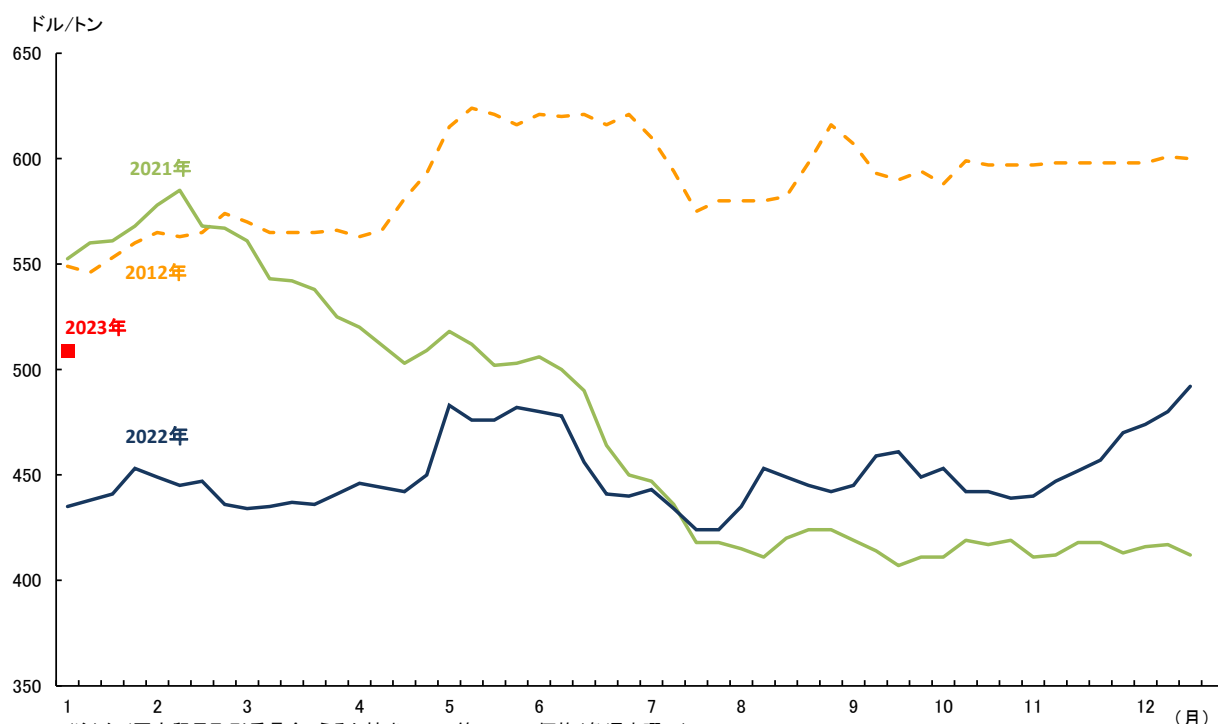
その後、3 月から 5 月にかけて、継続するイラク等からの強い需要により、480 ドル/トン台前半にまで値を上げた。6 月に、2017 年以來のパーツ安に加え、イラクやアフリカ諸国からの需要が低下したことや、7 月に、パーツ安に加え、乾季作の新穀が市場に流通し国内価格が低下したことから、420 ドル/トン台半ばに値を下げた。

8 月は、タイ国内の堅調な需要に加え、中東等からの新規需要等から、440 ドル/トン台前半に値を上げ、さらに、9 月にはパキスタンの洪水による被害や、インドの輸出規制(碎米輸出禁止と一部精米の 20%輸出税賦課)から 460 ドル/トン台前半に値を上げたものの、タイのパーツ安や軟調な国際需要により 450 ドル/トン前後に値を下げた。

10 月は、パーツ安や新穀の供給開始から 440 ドル/トンに値を下げたものの、11 月に入り、急速なパーツ高や、ベトナム産に比べタイ産の価格競争力があることから需要が増加し、11 月下旬に 470 ドル/トンに値を上げた。

【12 月】

12 月に入り、更なるパーツ高や、タイ産米が競合するベトナム産米に対し引き続き価格競争力があること、インドネシアの政府備蓄不足に対処するための輸入等、アセアン諸国からの堅調な需要等により値を上げ、12 月下旬現在、490 ドル/トン台前半で推移。



(注) タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

● 大 豆：15.02 ドル/bu（前年同時期の価格：14.02 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2023年1月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

【1月～11月】

1月中旬以降、乾燥による南米の生産量の減少見通し、ウクライナ情勢の緊張の中、南米の高温・乾燥によるさらなる減産懸念や、植物油価格全体の上昇等から上昇し、3月初旬に17ドル/bu台前半に値を上げた。さらに、6月上旬には、中国のロックダウンの解除、大豆の堅調な国内需要や原油相場の上昇等から17.69ドル/buと2012年9月の史上最高値に迫る水準に値を上げた。

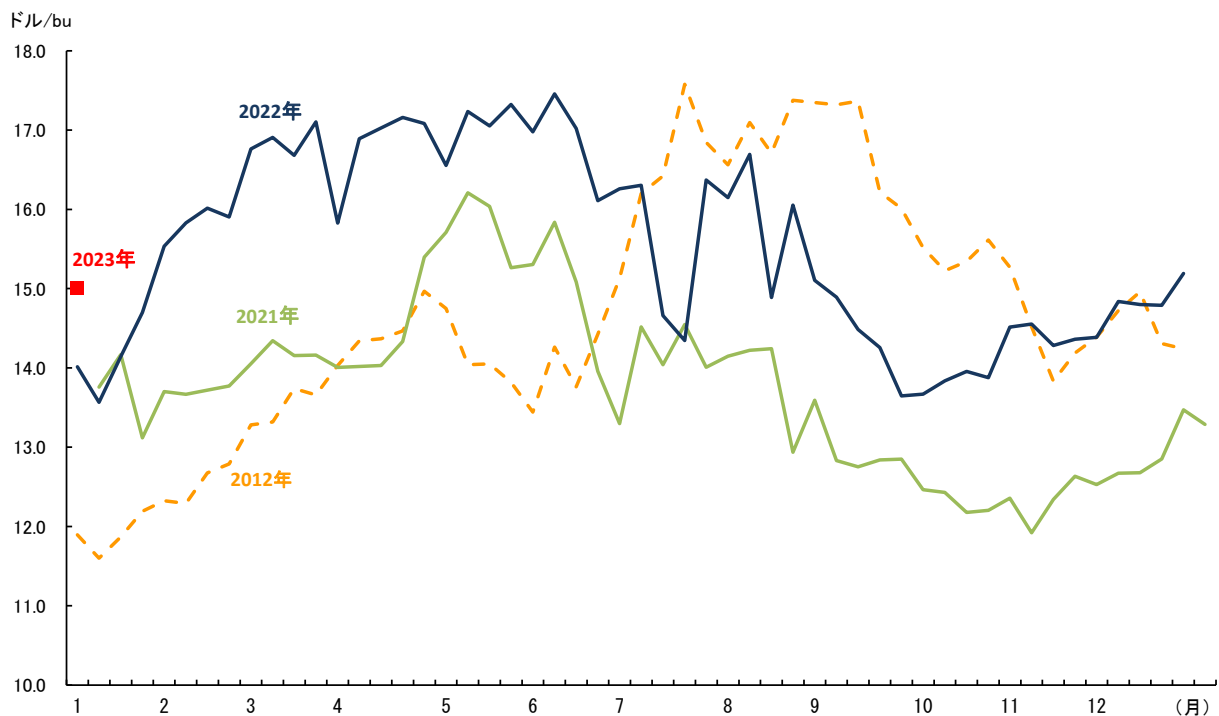
6月中旬以降は、中国需要の伸び悩み懸念や欧米の経済減速懸念、米国中西部の一部での降雨予報から下落し、7月下旬には14ドル/bu台前半まで大幅に値を下げた。

8月上旬に、米国中西部の高温・乾燥懸念、ドル安等から、17ドル/bu前後に値を上げたものの、9月中旬以降、世界的な景気後退懸念や米国での収穫の進展、米国の四半期在庫量が市場予測を上回ったこと等から、10月上旬に13ドル/bu台半ばに値を下げた。

10月中旬には、USDAの10月需給報告で米国の生産量が市場予想に反して下方修正されたことから、一時14ドル/bu近くまで値を上げ、その後も、米国の収穫の進展、ミシシッピ川の水位低下による米国産の輸出競争力低下、世界的な景気減速懸念等があったものの、米国の低水準の期末在庫量等から上昇し、11月末に、14ドル/bu台半ばに値を上げた。

【12月】

12月に入り、米国環境保護庁（EPA）によるバイオ燃料消費義務量の提案が市場予想を下回ったことなどから14ドル/bu台前半まで値を下げたものの、アルゼンチンでの干ばつの影響懸念や、その影響による大豆粕価格の上昇、中国のゼロコロナ政策の緩和の動きに伴う大豆輸出が拡大するとの楽観的な見方等から値を上げ、12月末現在、15ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
108.99	106.78	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93							

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
45.01	48.22	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51							

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

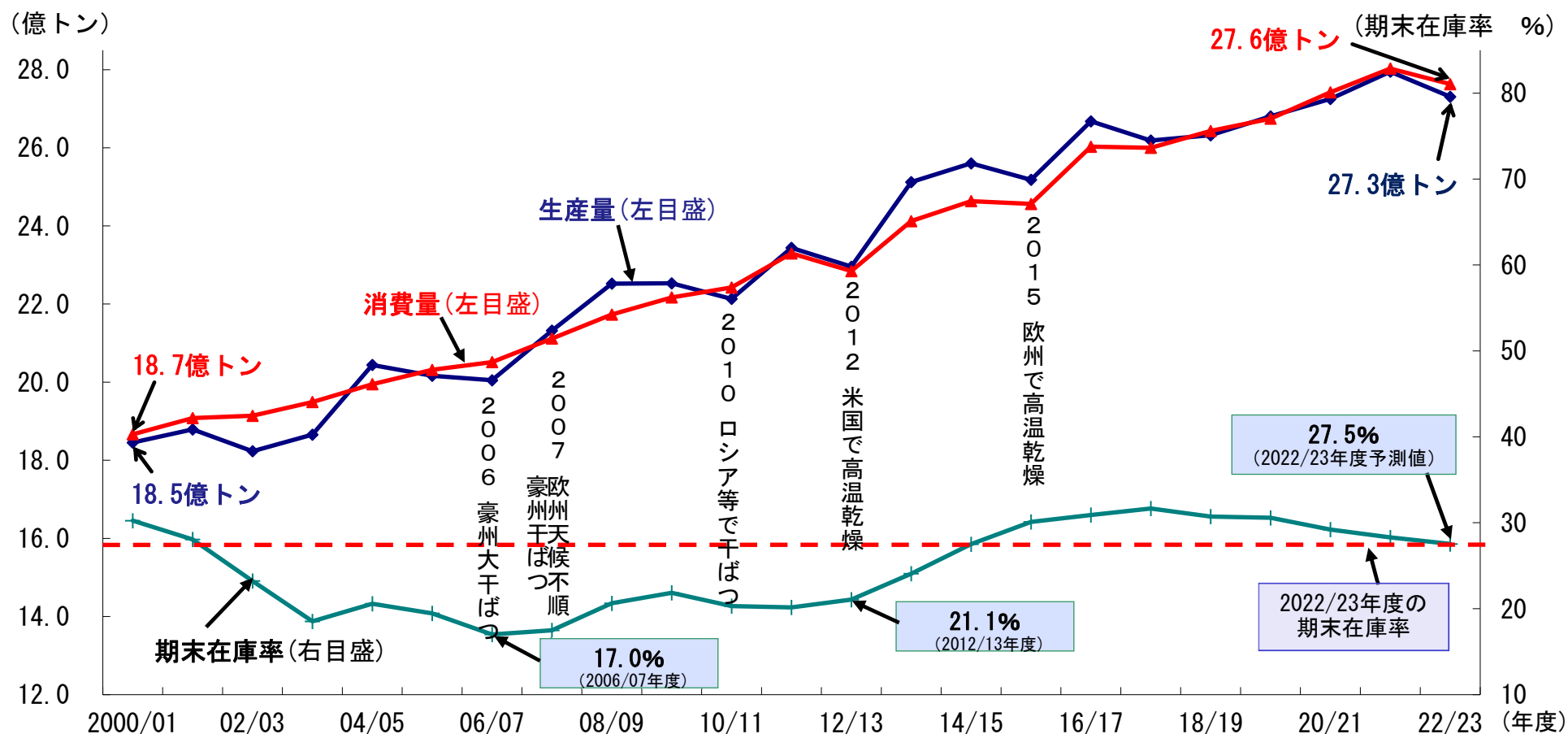
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
57.03	39.40	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.44							

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ 月次アップデート」令和4年12月, 124頁
但し、2022年12月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2022/23年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2022/23年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、27.5%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 2023)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。